

甲賀市教育委員会

教育長 西 村 文 一 様

土山学区幼保・小中学校再編検討協議会 報告書

土山学区幼保・小中学校再編検討協議会（以下「協議会」という。）では、甲賀市教育委員会が示された「甲賀市幼保・小中学校再編計画」（以下「再編計画」という。）に対し、令和2年9月から4回にわたり、土山学区の子どもたちにとってより良い保育、教育環境について、子どもの育ちと地域の未来を大事に考え慎重に協議を重ねてきました。その中で、存続、再編、どちらにもメリット、デメリットがあるということは、共通に認識ができたところです。

まず、幼児期は人として生きていくことの基礎を作るための時期であり、その成長過程においては最も重要な時期であると言えます。土山にこにこ園においては、園児数が多いことが現状にあります。部屋のスペースが十分に確保され、子どもたちが主体的に活動できる環境の中で保育されることが望ましいと考えています。また園児も地域の人とのつながりが深く、家庭的な雰囲気の中で通園ができており、保護者や地域にとって欠かすことのできない存在となっています。

次に、土山小学校については、恵まれた環境の中で、自然を活用した学習や活動を行うなど、土山の良いところを教育に取り入れ、子どもたちにきめ細やかな教育がなされています。子どもたちものびのびと学習をしており、地域と学校が一体となった運営が行われています。

しかし、再編計画が進むことで校区が広がることは、保護者や地域の方にとって様々な心配もあります。今後、通園、通学や地域と園、学校の協力体制などについて、子どもたちと地域の未来を考えた取組とそれに伴う不安や心配の軽減を具体的に検討しなければなりません。

更に、園児・児童数の減少やアフター(ウィズ)コロナ等の予想のしにくい社会情勢の変化に対し柔軟に、調整検討をする機会が必要にな

ると考えますが、現時点では保護者や地域の思いを踏まえると協議会としては存続させることが望ましいと判断したところです。

将来、子どもたちが土山の地域でどのように育ち、土山をどう支えていくのかを思い描きながら、子どもたちの確かな育ちと土山地域の発展のために、保護者、地域、園、学校が連携したまちづくりができるよう今後ともご尽力いただきますようお願いいたします。

令和3年1月22日

土山学区幼保・小中学校再編検討協議会
委員長 大原 整